

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
538	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Preoperative Alcohol Screening Scores: Association with Complications in Men Undergoing Total Joint Arthroplasty. 術前アルコールスクリーニングスコア：全関節形成術を受けた男性における合併症との関連性	
<b>執筆者</b>	
Harris AH, Reeder R, Ellerbe L, Bradley KA, Rubinsky AD, Giori NJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Bone Joint Surg Am. 2011 Feb;93(4):321-7.	
<b>キーワード</b>	
術前アルコールスクリーニングスコア、全関節形成術、男性	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景：</b> 今なお外科患者のアルコール濫用はよく見られ、他の処置後の合併症のリスク増加に関連している。全関節形成術前の患者によるアルコール濫用に関連したリスクはよく知られていない。この研究の目的は、標準化された患者の術前のアルコール濫用スクリーニングスコアとその人の全関節形成術後の合併症のリスクとの関連性を評価することである。</p> <p><b>方法：</b> アルコール使用障害消費識別テスト(以下 AUDIT-C)は Veterans Health Administration(以下 VHA)を通じケアを受ける全ての患者に対して毎年行われるアルコール濫用のスクリーニング法である。スコアは0から12までの範囲で、スコアが高いほど消費の量や頻度が多いことを意味する。Palo Alto VHAにて手術を受けその年に記録されたアルコールスクリーニングスコアがあり少なくともアルコール使用があったと報告した185名の男性患者の研究にて、我々は術前スクリーニングスコアと手術に伴う合併症の数との関連を年齢と罹患率で調整した回帰分析にて評価した。</p> <p><b>結果：</b> 全関節形成術前にその年に少なくともアルコールを摂取したと報告した185名の患者のうち、17%(32名)はアルコール濫用を示唆するアルコールスクリーニングスコアであった。その32名のうち6名は合併症1つ、4名は合併症2つ、2名は3つの合併症を起こした。負の二項回帰分析において、スクリーニングスコアは合併症の数と有意な関連性があった(<math>\exp(\beta)=1.29</math>, p 値=0.035)。これは、高スコアでは信頼区間が広いがスクリーニングスコアが1上がるごとに合併症の数にて29%増加することを示している。</p> <p><b>結論：</b> VHAにおいて治療を受けた男性患者では全関節形成術に伴う合併症はアルコール濫用と有意な関連性があった。AUDIT-Cの3つの単純な疑問は、術後リスク増加の患者を治療チームに警告し、術前評価に組み込まれうる。アルコール濫用の術前スクリーニング、おそらく術前カウンセリング、大酒家の治療のため専門医に紹介すること、がこれから全関節形成術を受ける患者にとって必要であると示していると思われる。</p>	